

## NHKスペシャル スクープドキュメント 沖縄と核

放送日：2017年9月10日 放送時間：50分



対象校種 小学校高学年 中学校 高校  
対象教科 社会 総合

### この番組の良さ

#### ● 現在と過去の沖縄米軍基地問題を考える

現在、沖縄には米軍基地の7割（面積）が集中し、普天間基地の移転問題などがニュースとなっています。番組は、この基地にもかつて核兵器が配置され、核ミサイルの弾薬庫や発射基地が設置されていた事実を伝えます。沖縄県民は核兵器の存在を知らされていませんでした。また、核戦争を想定した基地のために土地を強制的に接收された例もありました。

#### ● 今まで公表されていない 沖縄の過去が明らかになる

NHKの今回の取材によって、今まで明らかにされていなかった新事実が幾つも明らかにされます。沖縄には核兵器が最大時には1300発存在していたこと、那覇の近くで核兵器の事故が起きていたこと、米軍と日本政府が1960年の改定日米安保条約締結の際に核兵器の沖縄配備を認めていたこと、沖縄返還後も緊急時には沖縄に核を持ち込む密約を交わしていたことなどです。

### 番組活用のポイント

#### ● なぜ沖縄に1300発もの核兵器が 配置されたのかを考える

1300発という数の核兵器は、当時の全世界を破壊できるものでした。なぜ沖縄にそれだけの核兵器が配備されたのか、その理由を当時の世界情勢から多面的に考えることができます。朝鮮戦争など米ソの対立、ソ連の大陸間弾道ミサイル開発、台湾をめぐる米中の対立などです。つまり、東西冷戦の中で、沖縄はアメリカの最前線基地とされていたことを理解することができます。日本本土で基地反対運動や原水爆禁止運動が盛り上がった結果、国内の基地の多くが沖縄に移されたという経緯も、番組から知ることができるでしょう。

#### ● 沖縄の住民の置かれた立場を考える

当時の海兵隊員の「沖縄の住民は、我々がどんな訓練をやっているかを知らなかったはず」、米軍と基地交渉にあたった元琉球政府の責任者の「核兵器の存在や訓練があったことは聞いたことがない」、米軍の訓練中の事故で亡くなった人の遺族が米軍に宛てた手紙の、「ばかげた戦争や演習はもうやめてください。9か月になる子供を抱えてどうして暮らしていけと言われるのですか。」という言葉など、生々しい証言が番組の随所に見られます。これらの証言から、太平洋戦争終結後も続いた人々の苦難や現在に至る基地問題を考えさせることができます。

#### ● 核兵器・核戦争の恐ろしさを再認識する


番組は、核ミサイルの誤発射により海中に核ミサイルが沈んだこと、その事故が隠蔽されていたことを明らかにします。当時の兵士の「これが爆発していたら那覇が吹き飛んでいた」との証言が衝撃的です。また、1962年のキューバ危機の際の、核ミサイル発射可能な状態を表す「HOT」という文字が映像で流れ、核戦争寸前という緊迫感を感じることができます。これらのことから、現在の平穏な自分の生活と照らし合わせ、核兵器や核戦争の恐ろしさを学ぶことができます。



執筆者  
能代市立能代南中学校  
教諭 嵯峨静人

## なぜ沖縄に核が1300発も配備されたか

[授業時間 50分×2] まるごと視聴

児童生徒の思考と活動の流れ	教師の支援と評価
<p>今まで日本に核兵器は存在したことがあったらどうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本は被爆国だから存在しなかった</li> <li>日本は作れなかったが米軍が持ち込んだ</li> </ul> <p>存在した！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ1300も必要？</li> <li>なぜ沖縄に配備した？</li> </ul> <p>なぜ、沖縄に核兵器が1300発も配備されたのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他に持って行く所がない</li> <li>ソ連や中国に対抗するため</li> <li>政府が決めたから</li> <li>当時アメリカの占領下のため</li> </ul> <p>番組まるごと視聴 (50分)</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>アメリカ軍の考えは？</li> <li>歴史的背景と世界情勢は？</li> <li>沖縄の人々の思いは？</li> <li>日本政府の考えは？</li> </ul> <p>当時はアメリカと共産圏が争っていて、沖縄を核攻撃の拠点としたんだ。韓国に核兵器を持ち込むにも都合が良かったのか。</p> <p>沖縄の人々は怒りや悲しみを感じてきた。日米安保条約や沖縄返還交渉の際の密約により、沖縄の核を黙認し、緊急時に核を持ち込むことも認めていたんだ。</p> <p>沖縄には、冷戦下のアメリカが共産圏への攻撃拠点として核兵器を配備した。日本は、非核三原則があったにもかかわらず、黙認した。</p> <p>これから核兵器とどのように向き合えばいいのか、周辺国が核兵器を持っている現状についてもどう考えるかを話し合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去・現在において日本に核兵器は存在したことがあるか聞く。</li> <li>1300の数字を提示し、なぜ沖縄のみに核兵器を配置したのか疑問が出るように配慮する。</li> <li>車が右側通行している写真を提示し、沖縄が1972年までアメリカに統治されていたことを確認する。</li> <li>戦後の年表を参照し、過去の歴史と関連させて考えられるようにする。</li> <li>視聴前に、番組では多くの新事実が明らかになったことを伝え、興味付けを図る。</li> <li>視聴中に映像からわかったことを箇条書きするように促す。</li> <li>当時の関係者の証言が多数あることに注目し、沖縄県民の置かれた立場を知る。</li> <li>教科書を参考に沖縄の米軍基地の現在の様子を知り、過去とのつながりを考えるようにする。</li> <li>これら分かったことから被爆国としての日本はこれからどうしていくべきか話し合い、発表する。</li> </ul> <p><b>【思考・判断・表現】</b> 被爆国としての立場を踏まえて、今後、核兵器とどのように向き合うかを、自分の言葉でまとめることができる。</p>

### コラム 明日世界が終わるとしても 核なき世界へことばを探し続ける～在外被爆者 サーロー節子～

13歳の夏、広島で被爆したサーロー節子さんは、目の前で多くの人が亡くなった悲惨な経験を、世界中の学校などで語ってきました。「日本では原爆で10数万人が亡くなったが、アジア全体では、中国人などの多くの人がそれ以上に死んでいる」と批判されることもあったサーローさんは、原爆を日本の被害として語るのではなく、一人一人の命を奪った悲劇として語るようになります。史上初の核兵器禁止条約採択に際して国連で演説したサーローさん。核なき世界へと人々を動かす言葉を探し求めるその努力に強く心を動かされます。小中高の社会科、高校の地理歴史科の第二次世界大戦前後の学習や道徳の「命の尊さ」「国際貢献」の題材としての活用が考えられます。